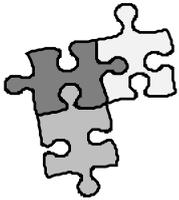


ひろがろう、協同組合の仲間と

2012年11月17日、18日 大宮ソニックシティほか



労働者協同組合(ワーカーズコープ)(以下労協)はワーカーズ・コレクティブ ネットワーク ジャパン(以下WNJ)と協同労働の事業体の法制化運動をともにしてきました。労協が毎年開催する全国集会在2012年は埼玉で行われ、埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会がWNJとともに実行委員として関わりました。20分科会のうち、第5分科会と第7分科会に参画し、ワーカーズ・コレクティブとして、事業のあり方や、地域ケアへの提言をしました。参加者からの報告です。



第5分科会

「人間らしい生き方働き方を
地域から創る協同労働の可能性」

◆仲間や地域とのつながりで可能性を広げたい

テーマは「持続可能な事業経営」。

今の日本は不況で、事業性の薄いことを行っている我々が持続していくには課題が多い。しかし、利潤追求を第一とせず、地域を豊かにすること、地域に役立つ仕事をすることである。地域の人々に必要とされ、安定した事業高が得られれば持続するはずである。地域住民の困っていること、不自由に感じていることを知り、その解決方法を考え、自分たちができることから実行する。

5つの事例発表から、地域のニーズは多様・複雑・変容していると感じた。長野の事例では店を出し、買い物難民の援助に努め、出だしは順調だったが、客足が減ってきている。商品内容や店内の改装(休憩コーナー作り)をし、打開策を試行錯誤している。単にサービスや物を提供するだけではないと話されていた。利用者の声を聞き、柔軟に速攻的に対応することが大切で、そのために情報の収集と発信が欠かせない。そして、その仕事で生活できる収入にすることを目指していく。

一人では難しくとも仲間や他のグループと一緒に

実行委員になって

今回初めて労協のイベントに実行委員として参画しました。互いに違いを確認することができたと思います。労協の事業継続への姿勢などは参考にでき、ワーカーズ・コレクティブが地域貢献に主体的に取り組む姿勢は評価されました。今後協同組合間協同を進める中で、協力し合えることがあると思います。

埼玉ワーカーズ連合会会長 後藤 成美



ことで可能性が広がっていく。

普段は業務をこなすことで、精一杯であるが、他団体の元気な方や頑張っているお話を聞き、私にはわが身を振り返る良いきっかけとなった。

NPO 法人ワーカーズコレクティブてとて
大野 恭子



第5分科会 ワークショップ

第7分科会

「支えあいの地域を創るコミュニティケア
～制度を超えて～」

◆つながりを作る大切さを学ぶ

基調講演は新潟県の河田瑛子さん(常設型地域の茶の間「うちの実家」代表)。河田さんは癌を抱えながら義父母の介護のために見知らぬ土地に来て、介護される側にもする側にも優しい「まごころヘルプ」を立ち上げました。そこは地域の人だれもが参加できる相互扶助、異世代交流の場である常設型居場所「うちの実家」となり、新潟全域への刺激剤になり、地域に合ったそれぞれの居場所200か所以上の創設につながったと話されました。

富山県の「ほびー」は仕事起こしからディサービスを始めました。H18年介護保険制度改正によりディサービスが利用できなくなった利用者のために「茶の間ほびー」